

(様式1) 鹿児島ACP連携用紙(患者さんの意向・価値観についての話し合いのサマリー) No.( 1 )

連携医療・介護施設	A病院 ⇒ B訪問看護ステーション
記載者	所属部署・職種・氏名: 病棟・看護師・C
患者氏名・生年月日・年齢	( D )様 生年月日:T・S・H( )年( )月( )日生 ( 60 )歳
記載日(話し合った期間)	令和( 3 )年( 4 )月(13 )日/(2019.9.10 ~2021.4.13 )
一緒に話し合った医療・介護従事者	職種/氏名: 医師/外来NS/病棟NS/MSW/管理NS
一緒に話し合った家族等	氏名/続柄: I 様/夫

No.	項目	話し合いの内容・ポイント
1	【病気の認識】 病気のことをどこまで知りたいか、誰と聞きたいか	2019.9.10 医療者とは十分に話し合えていると思っている。(外来NS) 2021.4.8 夫:余命についての話は聞きたくない。期間を考えながら生活をしたい。本人も同様に思っている。(病棟NS)
2	【気がかり・不安】 病状や将来への不安、気がかりなことについて	2019.9.10 治療の効果や家で過ごせる時間がどれくらいか(外来NS) 2021.4.7 気になるのはやっぱり夫のことかな。これからのことを考えて、家のことを教えたりしようとすると嫌がるし、やっぱり受け入れたくないんだなあって思う。いつ治療ができなくなるかわからないし、これからのことは2人でちゃんと話し合いたい。夫は聞きたいことも聴けていないかもしれない。夫のことも助けてあげて欲しい気持ちも聴いてあげて欲しい。(病棟NS)
3	【支え】 大切にしたいこと、生きがいなど支えになるもの	2019.9.10 ずっと家族といたい。したい事(旅行や家族との時間、孫の成長)をしながら治療を続けること。家事ができて、トイレ・お風呂も自分でできていること、夫が小言を言わないでいてくれること、今自分があることが何よりも幸せに感じる。(外来NS) 2021.4.6 今大切なのは、夫が一番、次に犬(癒される)そして花(管理NS)
4	【今の様子】 現在の病状や日常生活の過ごし方、以前との変化について	2019.9.10 PS:0 潰瘍部が悪化していないことから、以前よりはQOLは上昇、時折咳嗽有、嘔声持続。日常生活に支障はない。(外来NS) 2021.4.8 PS:3 前の治療(S-1)をしたという希望であるが、白血球も下がっており家に帰って生活を見て検討。副作用が出たら中止(医師)
5	【治療の希望】 将来、治療変更が必要になったら、どうしたいか	2019.9.10 辛い副作用は避けたい気持ちがあるが、1日でも長く生きたい気持ちがある。自分の好きな事を続けられるような治療を受けたい。生活の質を大切にしたい。(外来NS) 2021.4.6 もう治療はいいかなあと思っていたけど、入院して調子が良くなったら、できる治療は量を減らしてでもできないかなあと思う(管理NS) 2021.4.8 夫:彼女が頑張るなら従う、できる治療は頑張してほしい(病棟NS)
6	【今後の希望】 今後の医療やケアについての希望、療養場所についての希望	2019.9.10 家族との時間を大切にしたい。夫一人のみに負担をかけたくない。夫と一緒に話し合っ決めていきたい。(外来NS) 2021.4.13 本人はできるだけ自宅、夫は入院のほうが安心(MSW)
7	【意思決定能力と方法】 将来のことや治療のことなど物事の決め方やその能力	2019.9.10 自分で決めながら、家族と共に話し合っしていきたい。(不安を強く表出することもあるが、自身で意思決定する力は十分にある)(外来NS) 2021.4.7 これからのことは夫と二人でちゃんと話し合いたい。(病棟NS)
8	【代理決定者】 頼りにしている人、代理意思決定者、本人をサポートする人の状況	2019.9.10 夫。病状の理解も得られている。(外来NS) 2021.4.13 夫:訪問看護と当院通院について医療費合算の件について理解しているが、一旦それぞれの支払いになり負担(夫の一番の心配は支払い、経済的な負担への配慮必要)(MSW)
9	(8)の人と話し合っている内容	2019.9.10 まだ具体的には話し合っていない。質問紙と面談を受け病状が進み動けなくなった場合の事を具体的に想像することはできた。(外来NS) 2021.4.6 自分がいなくなった後のことを話そうとするが、夫は「今はいい」と言ってきてくれない(管理NS)
10	【予後】 予後や余命についての話し合い	2019.9.10 前医師に尋ねた時に「余命についてはわからない」と言われたので、分からないくらいには自分の余命はあるのだと思ったので、その時点では具体的に聞かなくても良いと思っている。しかし、治療を続け病状が進み、治療の効果がないとなってきたら余命を聞かないといけないと考えている。その場合は夫一人のみに聞いてもらうのは負担になると思うので夫と一緒に聞きたい。聞いた上で残された時間をどう過ごすかまで考えたい。(外来NS) 2021.4.8 余命とかは知りたくない。そういう時が来るっていうのはちゃんとわかっているけど。心構えとして知っての方がいいんじゃないかなあとと思っている。その時を待っているより今のうちに話をしていきたい(病棟NS)

【話し合っていない場合の記載例】

10	予後や期待される余命などについての話し合いの内容	2021.4.13 余命について聞くとそれに左右されるから、そのことについては聞きたくない(夫婦ともに)とのことで話し合っていない。医療者としては、病状進行も懸念されるので気がかりなところではあるが、病状についての理解はされているので、状況を丁寧に話し合いつつ可能なことを話し合いながら進めていくことを、夫婦と一緒に話し合っている。息子さんたちにも必要時経過を伝えるようにしていく(担当チーム共有)
----	--------------------------	---